

ドライビングシミュレータを用いた逆走対策実験を行います ～ 東北大学との連携による逆走対策の取り組み ～

近年、社会問題となっている高速道路での逆走は、重大な事故にも繋がりがねません。国土交通省仙台河川国道事務所が管理する三陸沿岸道路においても逆走が確認されており、その対策は急務となっているところです。

この度、東北大学未来科学技術共同研究センターと連携し、ドライビングシミュレータを用いた走行実験を行い、三陸沿岸道路の河北インターチェンジをモデルとして誤進入対策の検証、効果の評価、実験協力者アンケートを行います。

なお、走行実験については、性別、年齢、居住地などを考慮した実験協力者の協力により実験を行ってまいります。

■実験公開日：平成28年1月27日(水) 14時00分～15時00分

■実験場所：ソニー(株)仙台TEC内 みやぎ復興パークF40-1階
(多賀城市桜木3-4-1)

※ 報道関係の皆様は、13時30分に正門守衛所にお集まり願います。

※ 集合場所は別添位置図を参照願います。

※ 施設内への入構は、入構登録いただいた後、関係者が同行します。

■当日の内容

- ・ 今回の取り組みについて概要説明
- ・ ドライビングシミュレータを用いた逆走対策実験の内容について
- ・ 実験状況の公開

発表記者クラブ

宮城県政記者会・仙台市政記者会・東北電力記者会・東北専門記者会

問い合わせ先

■ドライビングシミュレータを用いた逆走対策実験について

東北大学 未来科学技術共同研究センター (NICHe)

准教授 やまべ しげゆき 山邊 茂之 電話 022-352-6601

■今回の取り組み全般について

国土交通省 東北地方整備局 仙台河川国道事務所

交通対策課長 まつもと あきら 松本 章 電話 022-248-4131 (代表) 内線471

ソニー(株)仙台TEC内みやぎ復興パーク位置図



ドライビングシミュレータを活用した 車両ードライバーインフラ評価技術

東北大学 未来科学技術共同研究センター
准教授 山邊茂之

ドライビングシミュレータ

自動車に関わる人と物とのインタラクティブや感受性は非常に重要であり、これらの評価を安全に行うために現実に関わりなく近い環境での評価が可能なドライビングシミュレータの活用により、諸問題を解決、明らかにします。

インフラの事前評価：

看板・標識など、ドライバから見て視認しやすいレイアウトと配置の評価や、事故多発地帯の検証、復興に向けて、避難誘導路の有効性検証など、仮想空間を構築して、様々なインフラの評価が可能

ドライバ評価：

ドライバの挙動を運転動作データ並びに各種カメラ・センサによるドライバの生体信号から評価、有効性の検証が可能。
また、実スケール車両により車内レイアウトに関する評価も可能

車両特性評価：

車両制御には、車両運動解析シミュレータCarSimを搭載。制御やブレーキアシスト制御、カメラを用いた周辺認識など試したい制御を入れて走行評価が可能

シミュレータ評価：

シミュレータに載っている実車両は、様々な車両に入れ替えることが可能。
より現実に近い運転操作感の追及、映像のリアリティ向上など、シミュレータ構築の評価も可能



三陸自動車道 河北ICを例とした逆走対策効果評価実験

自動車による安全対策が進み事故が減る一方、全国的に逆走による事故がクローズアップされるようになりました。逆走問題は主は運転手の勘違いなどから起こるものであり、その勘違い減らす対策案の効果を実証的に示すことが難しいため、シミュレータを活用して運転手の行動（速度・走行軌跡・ブレーキ・ウインカーなど）を数値化して定量的に逆走対策効果を示していきます。



河北IC交差点



仮想空間にて河北ICを再現
(現況)



様々な対策案を検討
(例：着色舗装)

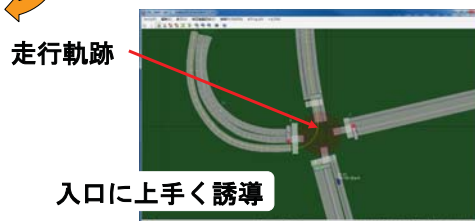
■対策案

- 着色舗装
- 分離帯の明示
- 入口部案内板

などを高齢者を対象に走行実験から検証



内側を走行→IC出口に進入する可能性有



入口に上手く誘導

